



京大広報

No. 679

2012.6



中国教育大臣一行と共に清風荘において記念撮影
—関連記事 本文3673ページ—

目次

〈大学の動き〉

- クロックタワーコンサートを開催……………3672
- 京都大学春秋講義(平成24年度春季講義)
を開催……………3672
- 中国教育大臣が本学を訪問……………3673
- 第18回京都大学国際シンポジウム
(AUN-KU Symposium 2012)を開催……………3674

〈寸言〉

- 花見のススメ 戸野谷 宏……………3675

〈随想〉

- アフリカ地域研究センターができた頃
名誉教授 市川 光雄……………3676

〈洛書〉

- 京都で巡る 石濱 泰……………3677

〈資料〉

- 平成23年度 総長裁量経費による採択事項…3678
- 平成24年度 入学試験諸統計……………3679

〈話題〉

- サウジアラビア・リヤドで「International
Exhibition and Conference on Higher
Education 第3回国際高等教育フェア
(IECHE2012)」が開催……………3684
- 「地質の日」記念企画展を開催……………3684
- 赤松明彦理事・副学長が南京大学110周年
記念式典に参加……………3686

〈訃報〉……………3686

京都大学渉外部広報・社会連携推進室

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

大学の動き

クロックタワーコンサートを開催

京都大学と京都市立芸術大学が主催して毎年開催しているクロックタワーコンサートを、5月6日(日)に百周年時計台記念館にて開催しました。今回は、「How to Compose? ~京都市立芸術大学大学院作曲専攻生による作曲作品レクチャーコンサート~」と題し、京都市立芸術大学の大学院作曲専攻生が、自作品の作曲方法や何を表現しているのかなど

の解説を行った後、それぞれの曲を演奏し、会場いっばいに響き渡る楽曲と美しい歌声が聴衆を魅了した。

また、来場された方々からは「作曲者の個性が出ていた」「それぞれの楽曲が持つ世界観と音階の構成についてわかりやすかった」「理論的な要素と実験的な要素が織り交ぜられていて非常に興味深かった」などの感想が寄せられた。



作曲した作品「ソプラノと箏のためのうた」の解説をする京都市立芸術大学大学院生とその演奏者

(渉外部)

京都大学春秋講義(平成24年度春季講義)を開催

京都大学春秋講義は、京都大学における学術研究活動の中で培われてきた知的財産について、広く学内外の人々と共有を図るため、昭和63年秋から毎年春と秋に開講している公開講座である。

今回は、メインテーマを「こころを科学する」として3回の講義を行った。1回目は4月25日(水)に

乾 敏郎 情報学研究科教授の「健康なこころを支える脳のしくみ」、2回目は5月9日(水)に十一元三 医学研究科教授の「子どものこころの発達と社会性の脳科学」、3回目の5月23日(水)は河合俊雄 ころの未来研究センター教授の「村上春樹でこころを科学する」と題した講義であった。各回とも満員となる盛況ぶりであり、講義後には活発な質疑応答が行われた。

参加者からは「人の成長、コミュニケーション、社会性にとって必要なポイントが理解できた」「脳の仕組みと心の問題についてわかりやすく解説していただき勉強になった」「超越と現実、普段考えないテーマについて思いを巡らすことができた」などの感想が寄せられた。

次回は平成24年度秋季講義で、9月16日(日)、30日(日)に各2回の講義を行う予定である。

(渉外部)



会場の様子

中国教育大臣が本学を訪問

5月24日(木)、袁貴仁中国教育大臣をはじめ菅培俊中国教育部人事局長ほか合計8名および大使館関係者7名が松本 紘総長を訪問された。

中国教育大臣一行はまず、大西有三理事・副学長と引原隆士図書館機構副機構長の案内により、附属図書館の貴重図書等の視察を行い、その後松本総長、淡路敏之理事・副学長、大西理事・副学長、塩田浩平理事・副学長、吉川潔理事・副学長、赤松紀彦高等教育研究開発推進センター教授等と百周年時計台記念館迎賓室にて会談を行った。会談では松本総長が京都大学の概要および主要な研究施設等を紹介した後、増加する日中の学術交流の今後について意見交換が行われた。

その後、同一行を招いての昼食会が清風荘で開催された。昼食会では和やかな雰囲気の中、お互いの教育哲学や大学運営に関する考え方について意見交

換が行われ、かつて北京師範大学の学長を務めていた袁大臣の話に、松本総長も深く頷いていた。

昼食後、同一行は松本総長の案内により清風荘の日本庭園等を視察し、その美しさに改めて感銘を受けていた。



清風荘を視察する袁大臣(左)と松本総長



袁中国教育大臣と松本総長(前列)
中国教育大臣一行と本学関係者(後列)

(研究国際部)

第18回京都大学国際シンポジウム(AUN-KU Symposium 2012)を開催

5月24日(木)、25日(金)の2日間、チュラロンコン大学(タイ・バンコク)にて、第18回京都大学国際シンポジウム「『人間の安全保障』開発を目指したアジア・アカデミックパートナーシップ」(AUN-KU Symposium 2012)を開催した。

2日にわたるシンポジウムには、日本、タイ、マレーシア、インドネシア、ラオス、インド(遠隔講義)から延べ130名の参加があり、本学からは西阪 昇理事・副学長、森 純一国際交流推進機構長のほか、工学研究科、農学研究科、エネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所、東南アジア研究所、地球環境学堂、研究国際部から合計27名が出席した。

今回のシンポジウムは、AUNおよびチュラロンコン大学の協力を得て実現した。AUNとは、ASEAN University Networkの略称で、1992年の第4回ASEANサミットで提案され、1995年に創立した国際大学連合である。ASEAN加盟諸国を牽引する26大学で構成され、ASEAN加盟国だけではなく、世界各地域と学生交流、研究者交流や共同研究を積極的に実施し、地域内の人材育成の開発に取り組んでいる。

第18回京都大学国際シンポジウムは、2009年にAUNとの間で締結した学術交流協定のもと開催されたAUN-KU ワークショップ- Building Academic Partnership through Collaboration and Exchange (平成23年3月8日(火)- 9日(水)於：チュラロンコン大学)にて築いたAUNや東南アジアの各国・地域との研究交流・学生交流の基盤をさらに深めるべく、「『人間の安全保障』開発を目指したアジア・アカデミックパートナーシップ」というテーマで実施する運びとなった。

シンポジウムは、Choltis Dhirathiti AUN副事務局長、西阪理事・副学長、Pirom Kamolratanakulチュラロンコン大学学長による開会の挨拶で幕が開いた。西阪理事・副学長の挨拶では、AUNおよびチュラロンコン大学へのお礼を述べた後、シンポジウム開催の経緯お



西阪理事・副学長による開会の挨拶

よびテーマについての説明があり、現在、我々が直面している、環境・エネルギー問題、食糧・水の安全、感染症、大規模な自然災害などの地球規模の課

題に対応していくためにはこれらの分野の研究者が結集し、地域・国を超えた交流・協力が不可欠であるとされた。

Ramaswamy Sudarshan 国連開発計画(UNDP)教授による基調講演では、ASEAN諸国における「人間の安全保障」開発の現状が、河野泰之東南アジア研究所教授による基調講演では東アジアにおける「人間の安全保障」開発の目的や研究の現状がそれぞれ紹介された。シンポジウムは4つの研究発表セッションにて、感染症、防災、食糧と水の安全、環境・エネルギーの各分野から各国の研究者が講演し、質疑応答では他分野の研究者から質問が出るなど、研究分野や国を超えた検討が行われた。

シンポジウム2日目午後には、キャロライン・ハウ東南アジア研究所准教授およびDhirathiti副事務局長の司会進行のもと、各セッションの研究内容を統合し、シンポジウムのテーマである「人間の安全保障」開発を目指したアジア・アカデミックパートナーシップの確立のための課題や方策について熱い議論が繰り広げられた。

シンポジウムの最後のセッションでは、大垣英明エネルギー理工学研究所教授により、シンポジウムの議論がまとめられ、アクションプランとして、AUNや東南アジアの各国・地域との共同研究、研究者交流や学生交流を振興していくための現在進行中のプログラムや今後の実施計画が提案され、参加者の合意を得た。

森機構長による閉会の挨拶で、シンポジウムは盛況のうちに幕を閉じた。

第18回京都大学国際シンポジウムのウェブページは<http://www.opir.kyoto-u.ac.jp/kuins18/>である。



質疑応答の様子(河野教授)

(研究国際部)

寸言

花見のススメ

戸野谷 宏



ワシントンの桜が満開だという記事があった。我が家の近くでも蕾がほころび、今年も桜の季節がやって来た。

還暦が近くなって見る桜は、若い頃とは違いまたひとしおの感慨がある。大学時代、学生運動も終息して、それまで挙げていた拳の下ろしどころを探すような日々を送っていた時、何ともいえない虚無感の中に満開の桜があったのを思い出す。

唐代の詩人劉廷芝(希夷)は「代悲白頭翁」(白頭を悲しむ翁に代る)の中で「年年歳歳花相似 歳歳年年人不同」(年年歳歳花あい似たり 歳歳年年人同じからず)と言っているが、毎年同じように咲く花と、限りある人の命の哀れは古今東西語り継がれているところである。

ここに登場する“洛陽城東の桃李の花”の落花にため息をつく洛陽の娘たちも、我が小野小町も、年々肌のつやが鈍くなっていくことに敏感である。私も白髪の手となった。まだまだ若いつもりでいるが、青春時代のことを思い出すと、今は昔である。桜については、若い頃は酒のつまみとして重要な位置づけを占め、残念ながら花の開花にいちいち来し方行く末を想った記憶はない。

こんな私にもその後毎年、一年の総括を促すかのようなきっちりとした桜の開花がやって来た。春爛漫に気持ちはいつも高揚し、圧倒されるような満開と、潔く散る花吹雪を見てきた。何回か人生の節目に出会った桜もあった。妻を見舞った日は満開の桜だった。子供たちの成長、孫の誕生、懐かしい思い出の中にも花びらの舞う風景があった。こんな訳で今、私は大いに桜を愛でている。

どこかで聞いたが、「花鳥風月」は、加齢により趣を感じる順序でもあるそうだ。私が今、落花に涙するのは極めて妥当なところであると言える。今後、年を重ねるに連れて、鳥、風へと哀れの対象が移り、晩年に月を想う頃にはすっかり老境の極みに達しているというわけである。

なぜ桜なのか、については多くの人が語る場所であるが、まず花の美しさである。桜貝、桜鯛、桜色にはほほを染める、など薄紅の色は清楚だ。咲き方もいい。葉が芽吹く前に花が一斉に咲き、明快である。長い冬が終わり、さあこれからだと思ふ頃の開花は、新たな旅立ちへの想いに重なる。年度末にも相応しい、人生の「応援花」である。そして、何よりこの花の特質すべき点は、その散り際であることは論を待たない。

満開の花を見て悲喜交々の想いに耽っていると、「さあそこまで」と言わんばかりに幕を引く。「いつまでも喜んでいてはいけない」、「いつまでも悲しいではいけない」と教えてくれているようだ。

さて、先ほどの劉廷芝の詩の中に「已見松柏摧為薪 更聞桑田變成海」とある。“時の流れはいつのまにか畑を海にしてしまう”と言っているが、一瞬にして海となった昨年の震災の風景を思い出した。

我々の住む地球も年々温暖化が進んでいる。自然災害や事故による被害も少なくない。「年年歳歳花相似」の状態が危うい感もある。いつも同じ花が見られるよう、これからの時代を担う若い人たちが知恵を絞って、「地球守」となっていたきたいものである。そして、若いうちにじっくりと桜を見つめて、自分と愛する人、町のこと、地球のこと、今までのこと、これからのこと、今この時のことを、考えて欲しいと思う。

今年は、ワシントンのポトマック河畔に日本から桜が送られて100周年だという。最初の搬送は病害虫で失敗したが、2回目の接木をした桜の苗木はほぼ完全な状態でアメリカに届いたそうだ。静岡の興津園芸試験場をはじめ、台木を提供した伊丹市など多くの人たちの強い気持ちの成果であった。

大正3年、ポトマックの御礼にとアメリカからハナミズキの苗木が日本に送られた。ハナミズキの花言葉は「返礼」だそうだ。日米親善のこれらの花はもうすぐ満開を迎えようとしている。

共に大きな災害を乗り越えてきた両国の、幼い子供達、若い人たちに「君と好きな人が百年続きますように」と祈りたい。

(とのや ひろし 静岡ガス株式会社 取締役社長 昭和51年 法学部卒業)

随想

アフリカ地域研究センターができた頃

名誉教授 市川 光雄

「アフリカ地域研究資料センター」の前身である「アフリカ地域研究センター」は、1986年に設立された。最初に概算要求を出したのは私が理学部助手になったばかりの1978年だったから、8年後にようやく設立されたことになる。この間は、第2次臨調すなわち行政改革の真っ直中で、設立は相当に難航した。霊長類研究所を窓口にした最初の概算要求でわずかな予算がつき、理学部の故伊谷純一郎教授の研究室にアフリカ地域研究調査室が設置されたものの、以後は新しい予算措置がなく、センター設立構想は膠着状態がつづいていた。そんなときに、伊谷先生が人類学のノーベル賞と言われる「トーマス・ハックスリー賞」を受賞された。霊長類学に関する先駆的な研究に対する賞であり、当時の新聞で大きく報道された。この受賞は、アフリカ地域研究センター設立計画にとって絶好の機会となった。その年の暮れに催された祝賀会には、当時の沢田敏男総長をはじめ、多くの関係者が集まった。沢田総長は、こちらで草案を用意した祝辞を読み上げた後で、「アフリカ地域研究センターをつくりましょう！」と声をあげられた。こうしてセンターの設立構想は一挙に具体化することになったのだが、その後の1年間は文部省(当時)、大学当局との間で厳しい交渉がつづいた。そして1986年の4月に、なんとか念願のセンター開設にこぎつけることができた。

新しいセンターは、2部門と資料室、合計6人の研究スタッフという小さな所帯でスタートした。建物は、荒神橋近くの川端通り沿いに南北に並んだ旧京都織物の南側の一棟があてがわれた。1階には吹奏楽部、2階には相撲部や映画研究会など、少し前の火災で西部構内のボックスを焼け出されたサークルが同居していて、午後になると、ブラスバンドの練習音や相撲部の四股を踏む音が響き渡っていた。什器類は、東南アジア研究センターが残っていた



古いものがわずかにあった程度で、あとは学内のあちこちで廃棄処分になったものを調達してこなければならなかった。

新しいセンターのスタッフは意気軒昂だった。私は毎日8時に出勤し、概算要求や建物改修の準備、全国のアフリカ研究者に向けた研究体制の構築、科学研究費の申請準備などにあたっていた。自身の研究に費やす時間は限られていたが、高揚感がある毎日だった。ひとりで歩いている時など、知らない間に「カルメン」とか「乾杯の歌」(ドイツ民謡)、果ては当時パチンコ屋でかかっていた「軍艦マーチ」など、威勢のいい歌を口ずさんでいた。昼には、スタッフが揃って河原町通りの食堂に通い、そこでさまざまなことを議論した。この頃が、理学部からアフリカ地域研究センター、アジア・アフリカ地域研究研究科と渡り歩いた私の教員生活のなかで、もっとも充実していた時期ではないかと思う。

私が新設のセンターでは雑用が大変だとこぼすと、伊谷先生はすかさず、「俺は、一生こんなブルドーザーみたいなことばかりやってきた。大学の教員には研究に専念している人も多いけどな」と言われた。またあるときには、「教授になるにはなにか手柄を立てんといかん」とも諭された。アフリカセンターのほか、財団法人日本モンキーセンターや、理学部自然人類学講座、霊長類研究所などの創設などに関わり、獅子奮迅の活躍をされてきた先生からこう言われると、返す言葉がなかった。幸か不幸か、私はその後、組織の設立や改変に翻弄されるというほどのこともなかった。センターにいたおかげで、毎年のように長期のアフリカ調査にも出ることができた。そして、これといった「手柄」も立てずに教授になり、定年退職を迎えてしまった。そのツケがまわってきたのか、現在の職場では財政や運営の問題で揉まれることになった。しんどいときにはアフリカ地域研究センターの設立の日々を思い出して、自らを叱咤している。

(いちかわ みつお 平成22年退職 元アジア・アフリカ地域研究研究科教授 専門は人類学、アフリカ地域研究 現 財団法人日本モンキーセンター 所長)

洛書

京都で巡る

石濱 泰



一昨年、京都に18年ぶりに戻ってきた。学生時代をすごした百万遍近くのちょっと監獄チックな灰色の暗い建物はスタイリッシュでモダンな建築物に変身していた。交差点角のパチンコ屋と郵便局は相変わらずだけど、銀行やオランジュやレストラン東山は消え、レンタルビデオ店は牛丼屋に変わり、古本屋さんも見当たらない。大体京都の街自体も地下鉄が東西に走ったりして隔世の感がある。しかし周りを見渡せば、鴨川は流れ、「大」の字は山肌に浮かび、東一条・百万遍は自転車であふれている。ああ、変わらないなあとノスタルジックにすら感じてしまう。しかしこんな感傷は京都に初めて住む家族には無縁である。完全車社会の地方都市で郊外型ショッピングセンターでの買い物に慣れきた我々にとって、京都はまったくもって優しくない街であり、せつかくの都市ライフも結局のところネットショッピングに落ち着くのはあまりに寂しい。しかし車社会からの脱出により5年間住んだ地方都市では全く減らなかった私の靴の底はたった半年ですりへり、おなか周りへの効果はまだ顕在化してないがメタボ予備軍の体にもきっと良いことがありそうである。

さて22年前、4回生で初めて配属された研究室で、突然先生方が次々と異動となり、研究室の内容が変わることになった。配属後半年たって少し研究が面白くなり始めてきた頃であり、すでに院試に合格し、このままこの研究室で進学と決めていたが、私ともう一人の院浪生は無言を言わず「定員が空いている講座」へ行くように突然指示された。配属は院試の成績順のはずだったが、僕ら2人のために再配属するようなことも考えてはもらえず、定員以上配属させてくれるような措置も一顧だにしてもらえず、結局おとなしく言われるままに従った。「賀茂

河の水、双六の賽、山法師」とどんな栄華を極めていても避けたいものがあるのかもしれないが、栄華のかけらもないのにいきなり山法師が降りてきて有無を言わず蹴散らされてしまった。そして配属先でも様々な事情から博士課程への進学の道は無く、残念ながら学生の立場の弱さをひしひしと思い知らされた。灰色の「硬い」建物で、楽しそうに過ごしている周りの研究室を見ながら、羨ましさでいっぱいであった。幸いにも世はバブル末期、就職はバラ色、会社は選び放題であった。修士2年5月の教室推薦などはさらさらもらう気もなく、推薦書なしでさっさと3月に就職を決め、修士卒業後は母校に来て一度も百万遍の硬い灰色の建物に入らなかった。時が経ち、会社にいながらも念願の学位をいただくことができ、修卒の自分には無縁だと思っていた海外ポスドク生活も実現した。何よりも力になったのは、自らの意思で道を切り拓くんだという意地であった。それは強制的に決められた道を簡単に受け入れてしまった学生時代の後悔があったことは否めない。そして縁あって、一昨年京都に戻ってきた。百万遍からはずいぶん南西に下り、南部生協に通う毎日である。学生時代にお世話になった教務の「きれいなお姉さん」がいつの間にか掛長さんで事務室におられたりしてびっくりしたが、学生時代には味わうことができなかった「ラボメンバーでぞろぞろお昼に行く」ということも日常になったし、あこがれの研究室旅行にも行けるようになり、遅まきながら憧れのキャンパスライフを謳歌している。現金なもので、厚く高い壁にしか見えなかった東山連峰は毎朝優雅に輝いているし、鴨川は柔らかに流れている。そして今度は自分が研究室を変えなければいけない立場になった。結局20年で一回り巡っただけ。そして同じことを今度は「山法師」ではなく「賀茂河の水」のように柔らかにやっている。それがいつか糧になることと自分自身を納得させながら。

(いしはま やすし 薬学研究科教授 専門はプロテオミクス・分析化学)

資料

平成23年度 総長裁量経費による採択事項

平成23年度の総長裁量経費については、下記の19件が採択された。
採択事項および対象部局等は次のとおりである。

プロジェクト等事項名	部局名	関連部局
最も優秀な課程博士論文の出版助成制度	文学研究科	
若手研究者出版助成事業	教育学研究科	
若手研究者に係る出版助成事業	法学研究科	
若手研究者の優秀学位論文等出版事業	経済学研究科	
若手研究者出版助成制度	人間・環境学研究科	
京都大学における自学自習 e-learning 環境の開発整備	情報学研究科	
平成23年度地球環境学堂出版助成事業	地球環境学堂	
大学院生を主体とした東日本大震災復興政策研究および提案活動への支援事業	公共政策連携研究部	
経営管理大学院就職支援システム (KUMaS) の国際化による全学留学生対応	経営管理研究部	国際交流推進機構
若手研究者による人文科学諸分野の優れた研究成果の刊行助成事業	人文科学研究所	
福島県下における土壌・水質汚染の実地調査と、放射性核種の高速除去技術の実証研究	生存圏研究所	化学研究所, 原子炉実験所, iCeMS
京都大学における大災害時の教育活動継続プラン立案のための実態調査と試行事業	防災研究所	
留学生が主導する国際インテリジェント人材育成教育プログラム	ウイルス研究所	
附属図書館の早朝開館と開館時間延長の試行	附属図書館	
京都大学アフリカ研究出版助成制度	アフリカ地域研究資料センター	
時計台ディスプレイ等のコンテンツ制作	事務本部 (総務部)	
iGEM2011(細胞エンジニアリング)学生世界大会参加・発表	事務本部 (学務部)	
学生の課外活動支援	事務本部 (学務部)	
【新】車座フォーラムの開催－社会連携・教育・女性支援を包括・統合した－	事務本部 (研究国際部)	渉外部, 学務部

(財務部)

平成24年度 入学試験諸統計

1. 募集人員・志願者数・合格者数・入学者数等調

学部・日程		募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学者 辞退者数	追加 合格者数	入学者数
総合人間 学部	前期(文系)	65 [^]	256 [^]	228 [^]	226 [^]	69 [^]	[^]		127 [^]
	前期(理系)	55	181	180	177	58			
文学部	前期	220	662	662	644	226			226
教育学部	前期(文系)	50	192	192	186	50			61
	前期(理系)	10	36	36	35	11			
法学部	前期	320	807	807	797	331			331
経済学部	前期(一般)	180	581	581	577	190			240
	前期(論文)	25	138	88	86	25			
	前期(理系)	25	119	119	117	25			
理学部	前期	311	1,045	1,031	1,021	315	1		314
医学部	前期	250	637	619	609	266	3		263
薬学部	前期	80	219	219	217	83			83
工学部	前期	955	2,515	2,514	2,484	967	3		964
農学部	前期	300	821	821	813	316			316
合計		2,846	8,209	8,097	7,989	2,932	7		2,925

〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学部	募集人員	志願者数	第1次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法学部	10人以内	27 [^]	22 [^]	13 [^]	6 [^]	6 [^]
経済学部	10人以内	32	17	11	6	5

〈医学部・薬学部 学科・専攻別内訳〉

学部・日程		募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入 学 辞退者数	追 加 合格者数	入学者数
医学部	前期	250 ^人	637 ^人	619 ^人	609 ^人	266 ^人	3 ^人		263 ^人
医 学 科	前期	107	328	310	305	111			111
人間健康科学科	前期	143	309	309	304	155	3		152
看護学専攻	前期	70	127	127	126	75	2		73
検査技術科学専攻	前期	37	99	99	97	39			39
理学療法学専攻	前期	18	36	36	36	19			19
作業療法学専攻	前期	18	47	47	45	22	1		21
薬学部	前期	80	219	219	217	83			83
薬 科 学 科	前期	50	128	128	128	52			52
薬 学 科	前期	30	91	91	89	31			31

〈工学部・農学部 学科別内訳〉

学部・日程		募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入 学 辞退者数	追 加 合格者数	入学者数
工学部	前期	955 ^人	2,515 ^人	2,514 ^人	2,484 ^人	967 ^人	3 ^人		964 ^人
地球工学科	前期	185	608	608	603	182	1		181
建 築 学 科	前期	80	225	225	219	82	1		81
物 理 工 学 科	前期	235	519	519	512	238	1		237
電気電子工学科	前期	130	299	299	298	133			133
情 報 学 科	前期	90	306	306	296	92			92
工業化学科	前期	235	558	557	556	240			240
農学部	前期	300	821	821	813	316			316
資源生物科学科	前期	94	—	—	—	97			97
応用生命科学科	前期	47	—	—	—	49			49
地域環境工学科	前期	37	—	—	—	40			40
食料・環境経済学科	前期	32	—	—	—	34			34
森 林 科 学 科	前期	57	—	—	—	60			60
食品生物科学科	前期	33	—	—	—	36			36

2. 合格者 最高点・最低点（総点）調

学 部		日 程	満 点	総 点			
				最 高 点	最 低 点	平 均 点	
総 合 人 間 学 部		前 期	(文 系)	800 点	600.50 点	432.33 点	466.87 点
			(理 系)	800	517.00	377.75	414.82
文 学 部		前 期		750	552.28	458.15	486.16
教 育 学 部		前 期	(文 系)	900	683.70	521.46	559.57
			(理 系)	900	604.63	491.98	520.29
法 学 部		前 期		750	579.80	437.95	475.47
経 済 学 部		前 期	(一 般)	800	623.15	487.35	526.83
			(論 文)	600	378.91	318.58	341.59
			(理 系)	900	622.00	504.41	544.05
理 学 部		前 期	注 1	650	507.00	302.00	346.54
			(数理 30 位)注 2	(400)	(347.00)	(264.00)	—
医学部	医 学 科	前 期		1,300	1,101.25	868.80	936.89
	人 間 健康 科学		看護学専攻	1,200	747.93	607.03	657.91
			検査技術科学専攻	1,200	829.16	716.43	753.93
			理学療法学専攻	1,200	817.50	692.00	728.30
			作業療法学専攻	1,200	792.70	634.36	682.37
薬学部	薬 科 学 科	前 期		950	686.68	569.08	610.81
	薬 学 科		950	675.56	540.45	579.96	
工学部	地 球 工 学 科	前 期		1,000	667.90	522.50	562.10
	建 築 学 科		1,000	673.41	508.30	563.77	
	物 理 工 学 科		1,000	779.93	532.36	593.79	
	電 気 電 子 工 学 科		1,000	689.83	510.63	565.37	
	情 報 学 科		1,000	650.93	496.46	535.78	
	工 業 化 学 科		1,000	688.60	501.71	548.81	
農 学 部		前 期		1,050	745.71	592.46	641.91

注 1：最高点は合格者（数理 30 位を含む）のうち総点が最も高い者の得点、最低点は合格者（同）のうち順位が最下位であった者の得点、平均点は合格者（同）の総点の平均点である。

注 2：合格者のうち個別学力検査の成績順位が「数学」と「理科」の得点合計を用いて定められる 30 位までの者の「数学」と「理科」の得点合計である。

(備考) 1) 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。
2) 総点については、合格発表時のものである。

3. 志願者・入学者 出身高校等所在都道府県別

上段…志願者数
下段…入学者数

都道府県	学 部										計
	総合人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	
北海道	10	16	5	10	9	36	7	5	27	11	136
東 北	青 森	3	2		4	2			5	3	19
	岩 手	1	1	1	2		1		2	2	10
	宮 城	5	5	1	3	5	3	2	11	7	44
	秋 田	1	2				3		1		7
	山 形	2				1	4	1	4		12
	福 島	3	2	1	1	5	4	4	1	3	24
	茨 城	7	3	4	5	10	13	4	1	29	80
関 東	栃 木	1	5	3	5	6	5	3	9	3	41
	群 馬	3	10	2	4	4	12		10	9	55
	埼 玉	3	17	5	8	10	21	6	18	12	104
	千 葉	11	10	4	5	13	27	5	27	10	113
	東 京	58	55	18	46	90	86	23	105	50	539
	神奈川	14	16	10	14	26	32	7	35	20	177
	中 部	新 潟	7	10	2	8	8	14	1	11	7
富 山		3	4	1	2	2	8	2	12	5	40
石 川		4	16	2	12	13	13	6	35	9	110
福 井		6	16	5	7	7	9	7	30	4	95
山 梨		3	4			1	3		9	4	26
長 野		5	13	3	12	8	15	4	13	7	82
岐 阜		6	10	4	16	10	20	6	47	6	128
東 部	静 岡	8	18	5	11	13	23	8	51	15	157
	愛 知	17	48	18	56	58	73	14	166	48	526
		7	17	9	24	19	25	9	75	23	218

都道府県	学 部										計	
	総合人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農		
近 畿	三 重	7	13	5	19	14	25	12	4	54	17	170
	滋 賀	12	5	5	18	17	22	24	6	86	30	225
	京 都	36	63	26	107	99	68	80	26	286	95	886
	大 阪	63	79	34	164	131	128	134	36	492	184	1,445
	兵 庫	44	52	17	73	80	94	100	20	272	85	837
	奈 良	24	29	9	54	55	42	61	11	204	48	537
	和歌山	3	10	4	17	18	15	38	5	83	21	214
	鳥 取	3	2	2	3	7	5	1	2	9	3	37
	島 根	1	4		3		7	1		9	4	29
	岡 山	5	19		11	8	16	10	1	45	11	126
四 国	廣 島	13	18	5	28	30	46	19	12	71	24	266
	山 口	3	1	4	7	5	13	2	1	18	8	62
	徳 島	1	2		4	1	5	2		8	3	26
	香 川	3	10	1	9	10	5	2	1	28	5	74
九 州	愛 媛	4	13	5	6	4	6	7		24	7	76
	高 知	4	6		4	7	11	5	1	14	6	58
	福 岡	9	24	4	19	28	45	17	10	94	22	272
中 国	佐 賀	1	3	1	4	1	6	1	1	12	2	32
	長 崎		2	2	3	5	7	7	1	16	8	51
	熊 本	5	7	3	6	4	10	2	1	8	6	52
	大 分	3	2		5	2	6	3		11	3	35
	宮 崎	4	3	1	4	7	6	3	2	7	1	38
	鹿 児 島	4	8	2	7	4	13	9	5	20	7	79
	沖 縄	2	2		2	2	7	1	1	4	1	22
合 計	431	655	226	794	832	1,031	624	217	2,503	818	8,131	
	125	225	61	330	240	312	262	83	964	316	2,918	

[備考] 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。
高等学校・中等教育学校出身者のみ各欄に掲載する。

4. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

学 部	志 願 者			入 学 者		
	総 数	現 役 24.3卒	浪 人 23.3以前卒	総 数	現 役 24.3卒	浪 人 23.3以前卒
総合人間学部	437 認 6	258 認 2 59.0%	179 認 4 41.0%	127 認 2	64 50.4%	63 認 2 49.6%
文 学 部	662 認 7	401 認 3 60.6%	261 認 4 39.4%	226 認 1	131 58.0%	95 認 1 42.0%
教 育 学 部	228 認 2	145 認 1 63.6%	83 認 1 36.4%	61	38 62.3%	23 37.7%
法 学 部	807 認 10 他 3	500 認 4 62.0%	307 認 6 他 3 38.0%	331 認 1	202 61.0%	129 認 1 39.0%
経 済 学 部	838 認 6	500 認 1 59.7%	338 認 5 40.3%	240	134 55.8%	106 44.2%
理 学 部	1,045 認 12 他 2	687 認 3 他 1 65.7%	358 認 9 他 1 34.3%	314 認 2	206 65.6%	108 認 2 34.4%
医 学 部 医 学 部 科	328 認 8	167 50.9%	161 認 8 49.1%	111 認 1	68 61.3%	43 認 1 38.7%
医 学 部 人間健康科学科	309 認 5	201 認 1 65.0%	108 認 4 35.0%	152	109 71.7%	43 28.3%
薬 学 部	219 認 2	153 69.9%	66 認 2 30.1%	83	48 57.8%	35 42.2%
工 学 部	2,515 認 12	1,626 認 1 64.7%	889 認 11 35.3%	964	609 63.2%	355 36.8%
農 学 部	821 認 2 他 1	546 認 1 66.5%	275 認 1 他 1 33.5%	316	185 58.5%	131 41.5%
合 計	8,209 認 72 他 6	5,184 認 17 他 1 63.2%	3,025 認 55 他 5 36.8%	2,925 認 7	1,794 61.3%	1,131 認 7 38.7%

(備考) 認…高等学校卒業程度認定試験合格者(大学入学資格検定合格者含む)
他…その他の入学資格取得者
認, 他は内数

[外国学校出身者のための選考に係る入学資格取得年別調 (外数)]

学 部	志 願 者			入 学 者		
	総 数	現 役 24.3卒	浪 人 23.3以前卒	総 数	現 役 24.3卒	浪 人 23.3以前卒
法 学 部	27	24 88.9%	3 11.1%	6	5 83.3%	1 16.7%
経 済 学 部	32	28 87.5%	4 12.5%	5	5 100.0%	0 0.0%

(学務部)

話題

サウジアラビア・リヤドで「International Exhibition and Conference on Higher Education 第3回国際高等教育フェア(IECHE2012)」が開催

International Exhibition and Conference on Higher Education 第3回国際高等教育フェア(IECHE2012)が、4月17日(火)から20日(金)まで、サウジアラビアの首都リヤドにおいて開催された。このフェアはサウジアラビア王国高等教育省主催で毎年行われており、今年は約40カ国から450の教育機関が参加した。本学からは、森 純一国際交流推進機構長、小野紘一シニアリサーチアドミニストレーター(名誉教授・特任教授)、研究国際部職員1名が参加した。

フェアは高等教育大臣ハーリド・アルアンカー博士のスピーチから始まり、このフェアの目的や高等教育に対する国家戦略が述べられた。

このフェアは一般にも公開され、参加している各教育機関がブースを出展し、学生や研究者に情報を提供するとともに、教育や研究についての相談を受

けた。本学の職員も代表者としてブースに立ち、日本への留学に興味を持つ多くの学生に情報や資料を提供した。

フェア以外にも、サウジアラビアとの協力関係を促進するための機会が多数あった。森機構長が Imam Muhammad ibn Saud Islamic大学を訪問し、日本における高等教育の状況について講演を行い、高い評価を受けた。また、小野シニアリサーチアドミニストレーターが日本貿易推進機構(JETRO)リヤド事務所を訪問したほか、サウジアラビアの有力大学とは協力関係の推進のため個別面談が行われた。キングファハド石油・鉱物大学や石油会社サウジアラムコとの面談は非常に有意義なものとなり、また Salman bin Abdulaziz大学と京都大学大学院農学研究科との学術交流協定を締結することができた。



本学のブースで学生に対応する
森国際交流推進機構長



Salman bin Abdulaziz大学のAwad Kh. Al-asmari副総長と
森国際交流推進機構長が学術協定締結書に署名

(研究国際部)

「地質の日」記念企画展を開催

5月12日(土)、13日(日)の2日間、総合博物館において「地質の日」記念企画展「大地は語る2012－ウェゲナーが魅せた地球・はやぶさが魅せる宇宙」を、理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室と総合博物館との共催により開催した。2日間で800人近くの一般市民や報道関係者が訪れ、非常に盛況であった。

「地質の日」は、社会の地質学への理解を深めることを目的として、地質学関係の組織・学会が発起人となって提唱されたもので、1876年5月10日に日本初の広域地質図が作成されたことにちなんで、5月10日に設定されている。これに合わせて毎年5月10日前後には、全国各地の大学・博物館等において「地質」への理解を推進するための一般向けイベントが

行われている。



会場となった博物館1階の様子

本学における「地質の日」記念イベントの開催は、今回で4度目となった。今回は、地質学鉱物学教室の研究紹介と研究試料の実物展示のほか、特別展示として大陸移動に関する展示や、地質学鉱物学教室の蒐集した貴重図書に関する展示、小惑星探査機はやぶさが持ち帰ったサンプルの研究に関する展示を行った。また、地質学鉱物学教室の教員・学生による講演、川の地層を再現する水槽実験、化石クリーニング実演など、例年以上に充実した内容であった。なお、教員指導の下、企画・立案から運営全般を学生が担当した。

今年2012年はドイツの気象学者A・ウェゲナーが「大陸移動説」を発表してからちょうど100年となるため、今回はこれにちなんで大陸移動に関する展示を行った。ウェゲナーが大陸移動説の正当性を説いた著書『大陸と海洋の起源』を展示したほか、後に大陸移動の復活とプレートテクトニクスの興隆の基礎となった古地磁気学に関する展示を行った。特に本学ならではの展示として、後に海洋底拡大の決定的証拠となる「地磁気の逆転期」の存在を1929年に世界



松山博士が古地磁気の測定に使ったとされる器具および試料

に先駆けて示した松山基範博士(京都大学名誉教授)の業績について実際の試料とともに展示した。

また、地質学鉱物学教室設立当時より蒐集されてきた自然史・地質学関連の貴重図書類から、特に重要な数点を解説とともに展示し、17~19世紀の地質学の黎明期を振り返ると同時に本学の所蔵する資料類の重要性をアピールした。なお、これらの図書類から選定された図版を用いたポストカードセットとクリアファイルが総合博物館ミュージアムショップおよび京大学生活協同組合店舗にて5月10日より販売されている。

さらに、探査機はやぶさの約7年に及ぶ軌跡に関する展示・解説と、探査機はやぶさが小惑星イトカワから持ち帰ったサンプルについて、現在京都大学で行われている研究に関する展示・解説も行った。今年度同教室に着任した土山 明教授により、はやぶさが持ち帰ったイトカワのサンプルの研究に関する講演が行われ、講演会場が満員になるほど多くの聴衆が集まった。

来場者へアンケートを行った結果、「来場前よりも「地質」に関する興味が増した」、または、「「地質」にはじめて興味を持った」と答えた人の割合は90%近くとなり、「とてもおもしろかった」、「子ども達がすごく興味を持っているものを見て触れて、いい刺激をもらっていた」などの感想も得られた。人間生活と深く関わっている「地質」への一般の理解を深めると同時に、主催側の学生にとっても普段行っている研究を紹介する良い機会となった。



好評を博した水槽実験の実演と解説を行うスタッフ(学生)

(大学院理学研究科・総合博物館)

赤松明彦理事・副学長が南京大学110周年記念式典に参加

南京大学110周年記念式典が、5月20日(日)に南京大學仙林キャンパスで開催され、京都大学からは赤松理事および研究国際部職員1名が出席した。

南京市全体が祝賀ムードに包まれ、「南京大学こんにちは」(“Hello, NJU”=110周年の「110」が含まれている)というスローガンと共に南京大学の110周年を祝った。

式典には、南京大学と親交の深い大学が世界各国から招待され、各界関係者、教職員、学生、卒業生等、数千人の参加者により、盛大に執り行われた。式典終了後には、南京大学の学生や卒業生が中心となって南京大学の歴史を歌、劇、踊りを通じて紹介するアートパフォーマンスが披露された。

京都大学と南京大学は平成18年5月に学術交流協定を締結し、昨年度は12月2日(金)に南京大学にて「京都大学の日」を開催、12月11日(日)には京都大学にて南京大学・京都大学共催の「中国語スピーチコ

ンテスト」を開催、12月14日(水)に京都大学で主催したAEARU(東アジア研究型大学協会)総会にはChen Jun南京大学学長が出席するなど、学術・学生両方の面で積極的に交流を行っている。



Chen南京大学学長(右)と談笑する赤松理事

(研究国際部)

訃報

このたび、清水慶彦^{しみずやすひこ}名誉教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。以下に同名誉教授の略歴、業績等を紹介します。

清水 慶彦 名誉教授



清水慶彦先生は、4月30日逝去された。享年71。

先生は、昭和40年3月に京都大学医学部を卒業され、同大学医学部附属病院において実地修練終了後、同41年4月聖マリア病院勤務、同42年3月厚生技官医療職に採用、同45年4月国立療養所岐阜病院勤務、同年5月三重県立大学医学部胸部外科学講座助手を経て、同46年4月国立療養所岐阜病院採用、同48年4月京都大学結核胸部疾患研究所助手に転任、同53年5月同附属病院講師に昇任、同55年1月京都大学医学博士の学位を授与された。同56年4月同研究所附属感染免疫動物実験施設助教授を経て、同58年9月同大学医用高分子研究センター教授に昇任された(平成2年6月改組により生体医療

工学研究センター教授、同10年4月改組により再生医科学研究所教授)。同16年3月に定年により退職され、名誉教授の称号を受けられた。

この間、基礎的及び応用的研究活動を活発に行い、再生医学の領域において合成高分子材料の生体内親和性向上方法の開発や、人工材料の形状と生体親和性の研究に関する優れた業績を挙げるとともに、深い学識と高い見識をもって医学部学生と大学院生の研究指導を行い、併せて後進研究者の育成に努力され、また学内諸委員会委員を歴任して大学の管理運営に貢献された。

また、日本バイオマテリアル学会理事及び日本胸部外科学会、日本人工臓器学会、日本呼吸器外科学会、日本気管支学会の評議員を歴任された。

(再生医科学研究所)